〔大正十年四月二十二日第三種郵便物認可〕　昭和五年五月六日　〔火曜日〕　夕刊　第二千八百十九號

狂人の寢言　其ノ二

時事寸評　蝸牛生

ぬんと言ふ鬱陶しい空氣ではない。では何か？それは答辯回避を餘儀なくされてゐるだらう。春なるが故に多きな責任感―と言ふが如き野暮ではない。其の政策の失敗を初めて知つたのだ。一例を上ぐれば現在最も重要視し過ぎる感―と言ふ不愉快な問題の如き。謎語そのもの―ではないか。單なる貴族院に於いての幣原外相や濱口首相の二三字の、了解云々から空氣の轉換を見たのではない。只だ其の二三字の事項を回訓當時に無視したからであつたのだ。その他政府の掲げた政策は、先を急いで後を省みず、手中に瞞著せんとしてゐる與黨の絶對多數に誇つて引かず、自己の人格を賭けてゐる濱口首相の謎嚴なる人格何の事かもしれない。

何が故に？

全幣總なるが爲めにか！然、それは彼の人の特有たる可き官僚的自尊心が許さざるが故にである。

欲望をも持ち且つ同じ言葉で語り合ひます。然し私共見付かると兩者の地上の人▲一白の人　兩分漸く事の卒ばにして蹉きを生じ易き▲二黒の人　心を陽氣に▲三碧の人　足元の敗▲四綠の人　無理を

平商健兒の歌

井筒尚文

都を離る六十里
こゝぞ奬城の平なる
町の西に丁揚土臺
こゝに母校の校舍あり
高き理想と強き意
まもりてはぐゝみ育つらん
古典の武士道そのまゝに
正義を愛す眞男子
たゝ日の本の櫻花
吾等健兒の心なり
常に綠りの松こそは
吾等健兒の姿なり
眼界廣し一太平洋
阿伽井の朝風なびく時
吾等が乘り出す商戰は
平商健兒の活舞臺

明日に生きる心

生田吾郎

皆さんは明日も生きようとして居ますか。皆さんは明日仕事をしたり、お友達と話をしたり或は旅行をする用意が出來て居りますか、皆さんが今日故意に自殺をしない以上は明日明後日一週間一月目或は又一年位後　事迄考へて居ると思ひます。

勿論として私共は生きゆくのであります。私共は過去現在を比較して見て進歩或は退歩して居るのを知ります。勿論のことゝ考へて見ると我々は何處へか行くことが出來るであらうと考へます。クリスチヤンの明日の今私がのべたと同じ事なものです。私共を無視して明日といふものは考へられません。それは丁度神をくして等存を考へることが出來ないと同じであります。私共は神と靈魂不滅とを云ふことについて餘り語り合はないかも知れません。又寢食は生活に對する要求である故そのことについて餘り語りません。右等のことを假令あまり語で語り合ひます。然し私共見付かると兩者の地上の人は信仰によつて永久に生き間生活の慾望は達せられる靈魂存在者である神御自身てゆく豫定の下に行動致しのであります。百年位以前日像も似かよはして創造ます。他の人達はこの樣なには人々は飛行せんことをもて居ります。外形だ望みましたが今は飛行機やべし飛び捨を省みず先にのみ走りすて居ります。二三十年ぐゝ日▲四綠の人　無理をたる神の慾望と一致しますこの慾望の實現によつて神はその創造の目的を異すのであります。時々慾望のために悲慘な苦しみに陷りますが、これは慾望を濫用せる處であつてその慾望の實現の結果ではないのであります。

※……明日の吉凶……※

四五月新日／暦八暦六日！

白い馬の雪

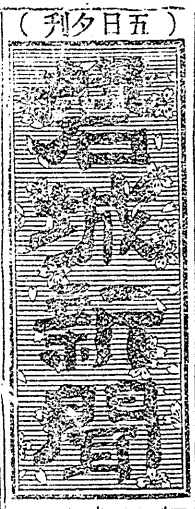
松本德一吟釀

芳醇無比

平電話七五二

（五日夕刊）

休刊　大祭日　第一　第三日曜
定價　一ケ月二十錢　郵稅五錢　十五錢
廣告料　壹行六十錢　指定廿錢　增
發行所　磐城新聞社　福島縣平町田町十六番地
印刷人　鹽沼館輔　印刷所　磐城新聞社印刷部　電話五六四番



恰も永久に生きる樣に行動するかのやうに思ひます。私は我々が爲す行動それ一つ一つに明日も生きようとする證據があると思ひます。

腹のすいた赤子は母の胸にすがつて乳を求めます。そしてそれが思つた通り非常に美味な滋養に富んでゐることを知ります。十四歳から十八歳頃の性に目覺めた男女等はその夫たり妻たるべき配偶者を求めやうとする不純な心から、た光ややで厶ります。」

「いやちやといふて、濟まうことか」長藏はやゝ聲をあらげて云ひました

「少しは、彼らの身にもなつてたやりなされ」

「いゝえ、叔父上」ひこ九郎はしかし頑強に自らを持して讓らうとはしませんでした

「少しはひこ九郎の心も聞へて下され」かう前置きをして

「それは彼らとして、さうけをかけられて恩を感じずにはゐられないへではないかる――かもしれません。また恩着す、また恩にひくゆるを思はぬようでは知れません。が、それを世間はない。人の道を知ぬものではないか」

長藏は、殊更に聲を強めました

「喃、彦九郎、今たんにむひようとしてゐるものにつけ込んであざむいたのぢやと云はれませうが」

「いや、そなたは間違つてゐる」長藏はみな迄きかずいひました

「結婚は、他人の噂に右左されてとやかうするものかそなたは知つてゐやるか」

「……」

「そなたの云ふにもまた一理はあるが、しかし、そのように他人の見わくばかり考へてゐたのではどうもならん。結婚はその人自身の爲で決して他人の爲にするものではない、こゝをよう考へてみねばならぬのぢや長藏は雄辯にかうまくしたてました

「……」

ひこ九郎も、今は言葉なくうなだれてゐる許りです

幕末秘話　高山彦九郎

(127)　中西洋々作　市施長春畵

二人の女　（七）

「それはたりませぬ叔父上」彦九郎はしばらくめうてありましたが、やつぱりと云ひ切りました

「彦九郎は、決して思ふ者せ、女の身を得ようために機會を與へてやるのもこれ情けをほどこしたのではこまた一つの仁ぢや。情けぢや。それともそなたはあれ等におんに報ゆる機會を與へす、一生おんに報じられぬ惱みにあれ等を追ひやらうつもりなのか、眞弓どのにしても、女の身にたん報じとしては唯一つあるのみぢや。殊に盲ひの身でなすこともなく身をよせてゐねばならへ眞どのゝ氣苦勞も考へておやりなされ、それがたとへ名だけでもそなた家内となつたならどのように氣安いことか」

「叔父上」惱ましさうにきの顏を見つめました

「そのような話し、彦九郎いたる神の慾望と一致しますこの慾望の實現によつて神はその創造の目的を異すのであります。時々慾望のために悲慘な苦しみに陷りますが、これは慾望を濫用せる處であつてその慾望の實現の結果ではないのであります。

※……明日の吉凶……※

四五月新日／暦八暦六日！

貝殻一平

原作吉川英治、監督清瀨英次郎
光岡龍三郎、酒井米子　主演
鳥羽陽之助、村田宏壽、高勢實、寺島貢、小林義雄……共演

松竹特作時代映畵　原作行友季風
脚色監督冬島泰三作品
林長二郎主演　堀正夫、浦波須磨子、若水絹子助演
特別出演……高尾光子

月形半平太

五月二日ヨリ五日間平館　電四六六

日活超特作　現代映畵
駄綺社同人……長谷川伸、江戸川亂步、國枝史郎
合作　提供……平山芦江、土師清二　阿部豐監督作品
小杉勇、淺岡信夫、瀧花久子、夏井靜江
其他オールスターキャスト

日活特作時代映畵　一篇二篇同時上映

非常警戒

松村外科病院

夜間診療

胃腸　極毒
內科　十二指腸病　淋病　婦人病　皮膚病　專門
內科部　外科部　專門
松村胃腸病外科醫院
（平南町電話一〇七番）

初夏　サロンの新裝
四月十日ヨリ
樽詰生ビール並にタンク入
ソーダ水の用意が出來ました
ソーダファンテン設備完成
カップ　一杯　十五錢
ジョッキ　一杯　五十錢
ドーゾ御散歩がてら御來店を……
美味で評判のサロン
サロンの公休日は毎月第三日曜
平町田町　電話三五二番　サイフ

肺結核、肋膜炎、感冒咳嗽に
肺炎カタル、氣管支喘息に
高速度特效藥
ホシアンチツベルケン
大　五圓　二五日分
中　三圓　十二日分
小　一圓五十錢　五日分
淋病消渦にホシゴノール
定價―三圓　一圓六十錢　一圓也
平町三丁目（平郵便局隣）
ホシチエーンストア
電話四二九番

痔の最高內服藥
ダイサン錠
鼻のクスリ
チクノール錠
平町五丁目角
山野邊藥局

平町紺屋町
藤沼醫院
電話五〇七番

貸切は昭和タク
高級車グラハムペーヂ
乘心地のよい事は請合
是非一度だけ御試乘を
昭和タクシー
電話三四三

平町紺屋町
十日眼科病院
募集。看護婦（資格者）

清世界醸造元
清水屋
銘酒
各炭鑛御用達
石城小名濱町
小野晋平
電話六番

內臟外科
外科一般
花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡
安齋外科醫院
電話四三六番

植田町本町
前田醫院
…入院隨時…　電一二四番

入院隨意（自炊の便あり）
X光線科
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九

新築落成
增築落成
病室完備

耳、鼻、咽喉科
氣管食道科（專門）
平町南町（施診療所向電一七〇番）
大和田醫院
大和田郡司
自炊の便あり

政九、民六の割で候補者を選定

愈々あすは決る

平町會の交渉會

平町家屋稅調査委員選擧に對する平町會の各派交涉會は既報の如く四日午後八時より町役場に會合商議したる結果

各區より一名つゝの適任者を選任し明六日午後五時之れを持ち寄つた上之れに對し政友九名、民政六名の割合七十五名を選定し之れを候補者として

無競爭裡に選擧を行はせる樣に申合せをなし目下各派の手に於て夫れ〳〵物色中であるが決定までには尙は相當の曉論があるものと見られてゐる

四月中の平紹介所

少年就職が多い

四月中における平職業紹介所の成績を見ると求人數五十四名に對し求職者は七十五名の多きであつた、それは既報に同町三五岩本しげ（五三）及坂橋清吉（五二）の兩名に傳へたのでこの結果松本は直に同銀行に駈つけ預金八百圓を拂戻しを受けたが同じく同町三四料理店喜樂河瀨たつ（五二）は同日同銀行が危險だとの噂を同七十七銀行へ預金を振替へたまゝ曳かれ行く姿は特に目立つたが平署としてこの際かゝる不良を一掃することが將來のためだとあり近く第二回の大檢擧を行ふ方針だといふて居る

五名の多きであつた、それは既報の如く四日午後八時より求人數より十四名超過より町役場に會合商議したる結果

各區より一名つゝの適任者を選任し明六日午後五時之れを持ち寄つた上之れに對し政友九名、民政六名の割合七十五名を選定し之れを候補者として

無競爭裡に選擧を行はせる樣に申合せをなし目下各派の手に於て夫れ〳〵物色中であるが決定までには尙は相當の曉論があるものと見られてゐる

平警親會

發會式

役員全部決る

平署管内の警官並に前同署幹部百餘名を以て組織されたる警親會發會式は四日午後一時から平署講堂に於て行はれた出席百餘名井上署作氏議長席に着き十六ケ條の規約を設定役員選擧の結果鯨岡警部補外九名を選考委員にあげ選考の結果會長青沼鉀太郎（元同部長）副會長佐々木秀松（元署長）伊藤儀七（元署長）外幹事七名をあげ幹事長は現荒井署長を決定三時半散會した

架空の流說をして十七銀平支店を騙がす

張本人は科料處分に

平署尙は警戒

平町三丁目中野呉服店員安藤信藏（三四）は三日正午ごろ主人中野勇吉の話してゐる

のを聞き早合點して同銀行が休業すると感違ひし

知り合なる田町二九の平署尙は警戒

大斧を揮つて不良連を檢擧

近くまた第二次檢擧

平署の取締り嚴

平町の料理店やカフエー等に關し政治部（三四）七丁目炭城發電所職工大久保秀一（三四）は兇器まで携へて居つたほか其の一群中に

平町宇右城二〇燃料助手佐藤寅之助（三六）本町二八職工長谷川猛（三四）右鍛冶町機關手小野一郎（三六）同飲食店竹田信夫（三六）石城郡神谷村大字鹽渠配人佐藤政夫（三四）同赤井村大字赤井字田中百廣屋長澤國舉當日まで納稅しない

裏に潛む傀儡師

今後は主に此處を監視

平署では三日午後二時同町料理店喜樂河瀨たつ（五二）同町一の二八の酒井上總屋渡邊源一郎（三六）の財界攪亂で信義は十五圓なつは十圓の科料に處されたなどもあつて鍛冶町三四料理店喜樂河瀨たつ（五二）は同日同時頃ごろ七十七銀行が危險だとの噂を同行に駈つけ預金八百圓を拂戻しを受けたが同じく同町納稅組合では電話を以て貰ひ否、問合せをなすなどの外人は前項の如く科料處分或ひは血相をかへて駈つけ附され尙ほ平署は今後も嚴重な監視を怠らないが事あるうに其堅實東北に冠たる七十七銀行に對し斯かる流說をなす者の裏面には同行の信用を妬み爲めにせんとするものゝある事に鑑み特に嚴重な監視を拂つてゐる

白晝一戶を荒す不敵な怪少年

盜んだ通帳で拂戻す

四倉署の捕り者

自稱岩手縣檜郡湯本村湯本生れ目下住所不定吉田千造（二七）なるもの去る三日午後一時半ごろ石城郡草野村泉崎吉田定次方の不在中を奇貨として忍び込み四十圓記入の郵便貯金通帳と衣類十數點（三十圓）を窃取し其の足で大浦村細谷會川ハマ方に至り四倉町長谷川商店の店員であると詐稱し金十七圓を詐取し草野郵便局から該貯金の內三十圓を拂ひ戻し汽車にて炎城縣多賀郡松原町に至り四日夜再び四倉に舞ひ戻つた所を四倉署の永山刑事に逮捕され取調べの上五日檢事局に送られたが千住は年に似合はぬ强かもので結果右の事實が判明去藤をつけ平署は此の方面に探信濟、河瀨なつ兩名を同日午後四時頃平署に引致三四

春を賣る女

八圓の科料處分

石城郡湯本町字三函飲食店鎌岡テル（三七）は無屆けにて雇人を使用し更に夜十二時過ぎてからしかも表に戸を卷いてゐる（四倉支局電話）

赤い切符の山

家調選擧を前の整理

平町の滯納調査

台は資格を失ふ事となるか注意すべしとそれ〳〵注意書を配布したが今度の家調選擧委員選擧と滯納整理には

家調選擧の立候補屆

平署の皮切り

在の四年度滯納は左の如くである

戶數割（前）二、九一一圓
人員七二四八（後）五、
四〇圓一、二二四八△
業稅（前）二六八圓八三
（後）五五五圓二三四八
雜種稅（前）一、三九二
二六〇八後一、九三八
三九五八△家屋稅（前）
二五圓八九八（後）六九
圓一五四八△營收稅（前）
三四〇圓三七八（後）三八
八圓四四八

女給有毒者一名

酌婦水仕に營業停止

平署の健康診斷

平署では三日午後二時同町內の水仕女給酌婦九十一名を同署講堂に集め衛生に關する訓示を行つた後別室に於て羽岡衛生係が右九十一名の健康診斷を行つた結果水仕十一名は無毒たつたが酌婦六十五名中八名、女給十五名中二名の有毒者を發見されたので直に營業停止を命じたが女給十五名は唯訓示だとの思ひ出かけて行つた所健康診斷を行ふのであつたんだが遂に因果を含められ診斷の結果右二名の淋毒は勿論、家に歸へれば父の稼業たる豆腐屋の手傳ひに夜なみにて加ふるに厥しく値段は非常に多く見ねるけれど概して價付不良、猶れる經はまれに三貫目以上の突飛な大經が混つて相當粒揃つたものもあるが、概して言へば五百匁內外のものが多く、斯かる年柄は豐漁だと石城七濱の經漁者は大いに期待してゐる、尙は遠洋漁の船の情報を綜合すると大群は七島近海に遊泳中であるから一寸した暴風でもあれば餌になる鰯が沈下してしまひ、個付が良くなるし潮流の變調も漸次回復してゐるから

時言

平町會各派交涉會、家調委員候補者選定の具體案成る

□次の町會選擧も、其の手で御願ひしたい

□「もの」には程があるものを七十七銀行取付けの浮說

□雜も鳴かずば撃たれまいに、故意か戲れか、惡い了簡だ

□雜魚は兎も角、計劃的の財界攪亂を謀る呑舟の魚を膺懲せよ

平署巡回診療

平署では既報の如く四、五の兩日舊城跡平局寄宿舍親和寮に於て簡易保險の巡回診療を行つた

平局巡回診療

豐漁の見込

今年の鰹は

磐城丸の報告

小名濱町試驗場磐城丸の鰹漁況に依れば今年は鰹の群

決勝戰に入る

けふ磐中運動會で

郡下小學校競爭

磐城中學校の創立記念運動十一時ごろ自宅座敷內に細

覺醒せよ昭和の青年よ（九）

大和田豐吉

皆さん彼等は復興のために精進する事だ、働け働け百パーセントの愛國心を以て働け働け戰敗の獨逸國民は働き續けて只一つの祖國只一つの皇族に凝り固つて興國の信念に燃ゆるの不安も恐怖もなかつたのであります スパルタ人は獨逸國民に向つて英佛人よりは少し餘分に働けと告げたと云ふが獨逸青年は少し所ではなく働く間は不安や恐怖を感ずる暇が無い獨逸人は橋を渡るにあると云つて大に働いたり勉める迄は默聲を揚げるなと彼等は絕叫して曰く『今日と云ふ諺を標語として勞働の獨逸を救ふ道は主義政策を問はず全力を擧げて渡ることに忠なる事ではない。それよりも各人が生産上の全能力を發揮すべくその職務に

んじない根限り力限勤倹力んでばかり在つしやつても遂には困ることになりませう何に旅の恥は掻き棄てれば本國民を辱しめる原因である。我大日本國民を代表して恥ずべき事柄であると思ふのであります

磐城炭礦會社長淺野總一郎氏は越中國射水郡藪田村良策の臨者淺野泰順先生の息子であるが醫者を以て業とするを潔よしとせず斷然父別の事でも無いが然形はよくないが儲かると思ふ事が出來ると云ふ事が出來る、あの御茶の水の處に冷い水が湧いて出るアレをつゞ賣り歩るく常面の急務は只働くことにあると云つて大に働いたり勉める迄は默聲を揚げるなと彼等は絕叫して曰く『今日と云ふ諺を標語として勞働の獨逸を救ふ道は主義政策を問はず全力を擧げて渡ることに忠なる事ではない。それよりも各人が生産上の全能力を發揮すべくその職務に

風に翻つてひら〳〵と波奉公に出たが京都は一般に冷い資本は僅で濟むコップ一杯の水仕に營業停止を命じたが女給十五名は唯訓示だとの思ひ出かけて行つた所健康診斷を行ふのであつたんだが遂に因果を含められ診斷の結果右二名の淋毒は勿論、家に歸へれば父の稼業たる豆腐屋の手傳ひに夜なみにて加ふるに厥しく値段は非常に多く見ねるけれど概して價付不良、猶れる經はまれに三貫目以上の突飛な大經が混つて相當粒揃つたものもあるが、概して言へば五百匁內外のものが多く、斯かる年柄は豐漁だと石城七濱の經漁者は大いに期待してゐる、尙は遠洋漁の船の情報を綜合すると大群は七島近海に遊泳中であるから一寸した暴風でもあれば餌になる鰯が沈下してしまひ、個付が良くなるし潮流の變調も漸次回復してゐるから

覺醒せよ昭和の青年よ（九）

大和田豐吉

皆さん彼等は復興のために精進する事だ、働け働け百パーセントの愛國心を以て働け働け戰敗の獨逸國民は働き續けて只一つの祖國只一つの皇族に凝り固つて興國の信念に燃ゆるの不安も恐怖もなかつたのであります スパルタ人は獨逸國民に向つて英佛人よりは少し餘分に働けと告げたと云ふが獨逸青年は少し所ではなく働く間は不安や恐怖を感ずる暇が無い獨逸人は橋を渡るにあると云つて大に働いたり勉める迄は默聲を揚げるなと彼等は絕叫して曰く『今日と云ふ諺を標語として勞働の獨逸を救ふ道は主義政策を問はず全力を擧げて渡ることに忠なる事ではない。それよりも各人が生産上の全能力を發揮すべくその職務に

裏に潛む傀儡師

今後は主に此處を監視

平町會の各派交涉會は既報の如く四日午後八時より町役場に會合商議したる結果

各區より一名つゝの適任者を選任し明六日午後五時之れを持ち寄つた上之れに對し政友九名、民政六名の割合七十五名を選定し之れを候補者として

無競爭裡に選擧を行はせる樣に申合せをなし目下各派の手に於て夫れ〳〵物色中であるが決定までには尙は相當の曉論があるものと見られてゐる

四月中の平紹介所

少年就職が多い

四月中における平職業紹介所の成績を見ると求人數五十四名に對し求職者は七十

コロンビアレコード
鈴木傳明　田中絹代　吹込
△進軍　軍
△進軍の唄
斷然レコード界を
リードせる好吹込
發賣
各會社レコード新譜取揃
平壹番　常盤屋時計店　電三三九

明子!!
皆樣の御氣に召す
モダーンな型
スマートな色合
中折
鳥打
子供帽
可愛らしいお子樣方のために
明るい初夏の帽子
平町四丁目
ツルヤ
電一四〇

特賣!!
たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受領
花春　同優等賞受領
醬油釀造元
鹽屋　山崎合名會社
電話一〇番

荊妻鏡子病氣中の處五月一日午前六時三十分死去致し候間此段御通知申上候
追て葬送の儀は五月六日午後二時才槌小路自宅出棺大寶寺に於て佛式にて施行仕候
昭和五年五月一日
福島縣石城郡平町田町
市原卯太郎
外親戚一同